

コロナ禍でもつながりをなくさない 地域のつどいの場



～日常の何気ないつながりが心を温かくする～

新型コロナウイルス感染症の流行によって生活スタイルが大きく変わりました。人と接することが簡単ではなくなり、地域からの孤立の危険性が高まっています。そのような中、ご近所さん・同級生・趣味友達など、気の合う仲間との日常の交流（つどいの場）が力を発揮しています。そんな「つどいの場」の大切さを皆さんにお届けします。

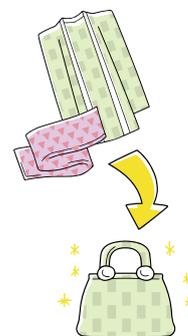
発行：社会福祉法人 荻田町社会福祉協議会



着物リメイクと おしゃべりでリフレッシュ



京町公民館に第2、第3木曜日に集まり着物のリメイクで思い思いの服を作っているのが「友遊会^{ゆうゆうかい}」さんです。おしゃべりしながら裁縫することで、日頃のストレスを発散できるそうで、みなさんお買物の話やお料理の話など話題が尽きることはありません。基本のメンバーは5名とのことですが、時々近所の方やお知り合い、ひとり暮らしの高齢者の方なども顔を出されるそうで、集まりを通して支え合いの輪が広がっています。



いい感じに
仕上がりました♪



作った服は自分たちで
着ています♪



笑顔が絶えない素敵なつどいの場

景観再生でふれあい、感動を与え、つないでいく

殿川ダムが完成した際に植えられていた桜の木が放置され荒れ果てていたところを、発起人の守さんご友人らが数名で活動を開始し9本の桜を救出、その後「殿川クリーンクラブ」を発足し四季の広場の整備、桜まつりの開催もおこなっています。



夢かなう 努力の先に 花は咲く



【桜の見ごろ】3月中旬から4月初め頃



【フジバカマの見ごろ】10月にアサギマダラが飛来します

現在会員数は30名を超え、町内の方はもちろん、町外の方やベトナム人の若者も参加しています。作業日は月に2回、日曜日の朝から自由参加で集まっているそうです。

四季の広場にはいろいろな種類の花や木が植えられており春・夏・秋・冬と一年を通して楽しめるよう管理されています。なかでも桜の木は毎年植樹しており種類も約20種類以上と豊富で春には訪れた人たちを喜ばせています。また10月にはフジバカマの花に海を渡る珍しい蝶のアサギマダラが飛来するそうです。

皆さんの今後の夢は「ダムの周りに遊歩道をつくり整備したい」、「四季の広場をもう少し拡張して、次の世代へつなげたい」ということを語っておられました。

作業をすることで体を動かし、おしゃべりすることでリラックスする。殿川クリーンクラブのみなさんのように生きがいを持って交流することが健康維持につながります。



【芝桜の見ごろ】4月から5月

移動販売 (葛川区・谷区・鋤崎区)

買い物に困っている方への支援として白川福祉連絡会が主体となり豊前市と行橋市から販売業者が来て移動販売を実施しています。

場所は葛川公民館・谷公民館・鋤崎公民館で毎週木曜日（鋤崎公民館は隔週）に開催中。

公民館まで出かけることで閉じこもりの予防になり、ご近所さんとお話することで認知症予防にもつながっています。また、ひとり暮らしの方に来ていただくことで見守り活動に結びついています。



買い物だけじゃない大切なこと



白川福祉連絡会
出口会長

移動販売をはじめた頃はいろいろ大変でしたが、今になってみればとても良い試みだったと思います。「地域の人たちが歩いて公民館まで来て、少しでもお話しをして帰る」ということがとても大事で、来ていない人が居れば心配し、気にかける。といったこともできます。ひとり暮らしの方と買い物をしながら食事や困りごとなどの話もします。移動販売を実施して本当に良かったと思います。

移動販売 (松原区)



松原区では買い物に困っている住民の声を受けて、移動販売を9月から正式に開始しました。行橋市より販売業者が来て公民館と区内の中心部の2か所で販売を行っています。8月の試験販売では近くに住んでいてもしばらく会えていなかったご近所さんに「久しぶり!元気やった?」と挨拶する声も聞かれました。

新型コロナウイルスによって今まで出来ていたこともできないような状況になっていますが、地域の人たちで支え合い、助け合って暮らし続けることができるような取組みが始められています。

地域のつながりを大事にするために



今泉区長と行村副区長
(左) (右)

移動販売車が来ることによって、閉じこもりがちになっていた方々が外出するようになりました。人が集まると自然と会話が生まれ、賑わいも出てきました。人と会って会話するという、今まで当たり前に行っていたことが難しくなり、地域にあったつながりが希薄になっていましたが、ここからつながりを再構築していきたいです。声を掛け合って、1人でも多くの方がつどう場にしていきたいです。

困ったときはお互いさま

「困ったときはお互いさま」の精神で活動を続けているのが住民参加型ボランティア「ミモザの会」です。2016年に結成され、今年で6年目を迎えました。苅田町内の日常生活上の困りごと（日常家事の支援や通院介助など）に対応しています。

また、地域に暮らす方が老若男女問わず自由に集える居場所“えん”の運営も行っており、折り紙教室や水彩画教室も行われています。散歩ついでに足を運んでコーヒー（1杯100円）でも飲んでいきませんか？ 認知症のことについて等々様々な相談も受け付けています。



多くの皆様とご縁が結べるよう



ミモザの会代表
中谷さん

住民参加型ボランティア「ミモザの会」代表の中谷禮子です。今年4月スーパーASOさんの右隣にミモザの会は拠点を移しました。一人でも多くの皆様とご縁が結べるように、又、ご利用頂けるように吉本副会長をはじめボランティアスタッフ全員、皆様との出会いを大切に以前以上に地域の居場所となれるよう頑張っていますのでご支援のほどよろしくお願い致します。

同級生が 絆を深める つどいの場



18年前に尾倉で直火自家焙煎珈琲・煎を開店。店主の同級生の方たちに口コミで広まり、自然と集まっておいしい珈琲を飲みながら昔ばなしや健康についてのお話し、ゴルフのお話しなどをして楽しい時間を過ごしているそうです。



自然と人が集まる居心地の良い空間



つどいの場について
知りたい



移動販売について
教えて欲しい

など

ご不明な点やご質問などございましたら
ご連絡ください。

苅田町社会福祉協議会

電話(093)-434-3641



『つながり』の中で 地域のきずなを大切に

昨年から続いている新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大により、苅田町でも福祉活動や年中行事の自粛、見直しが続いています。

「パンデミック」「クラスター」「リモート」など聞き慣れない言葉が当たり前になっており、確実に世の中は変わってきています。そのような中で、高齢者の心と身体の健康維持（感染症予防・認知症予防・介護予防等）のために、つながりをなくさないコミュニケーションの場があれば良いと考えます。「つどいの場」での出会いを大切にし「縁」を結べば「縁」になります。「縁」はやがて「縁」となり地域のきずなを強くする拠り所となります。「縁」は大きな力の源になり、「縁」は可能性を広げます。そして「縁」はコロナ禍でもつながりをなくさないと思います。

福祉の中核を担う本会は、地域住民・地域包括支援センター・関係団体等と協力をして「地域のつどいの場」の活動をより一層進めて参りたく、ご理解とご協力のほどよろしくお願い申し上げます。



苅田町社会福祉協議会
会長 林 浩二



今あるつながりを大切にしよう

2025年、団塊の世代が75歳を迎え、国民のおよそ5人に1人が75歳以上となります。75歳以上の後期高齢者が増えることにより、買い物・食事作り・病院受診・認知症・地域からの孤立等、普段の生活に何らかの支援が必要な人が増えると言われています。

超高齢社会の今だからこそ、住み慣れた地域での日常の交流を大切にしていきたいと思います。日常の交流があるからこそ、困った時の助け合いや普段からの支え合いが広がり、それこそが超高齢社会を乗り切る大きな原動力になると思います。

これからも日常の交流(つどいの場)の良さを伝えていきます。取材の折はどうぞよろしくお願い申し上げます。



苅田町社会福祉協議会
事務局長 古賀 靖教

製作 社会福祉法人 苅田町社会福祉協議会

協力 地域包括支援センターかんだ・地域包括支援センターおぼせ
地域包括支援センターしらかわ